

* 新年度を迎え、読者の皆様の職場や学校にも新しいメンバーが増え活気あふれる雰囲気になっていると思われま
す。ただ昨今の空前の就職氷河期のため、新年度にすべての
人が新しい環境で活躍できるとは限らず、このことは現在の
日本が抱える新たな社会問題として皆が考えなくてはいけな
いと思っています。

* このように仕事に携わる環境は時代とともに変わって
きていますが、仕事に対する考え方は昔も今も基本的には変
わらないと考えられます。これから社会で活躍していく新入
社員の皆様や、学校で今後仕事を探していく学生の皆様とも
一緒に、このことについて少し考えてみたいと思います。

* この会誌の読者の方々は、ほとんどが研究開発の分野
で活躍され、知的専門性の高い仕事に携わっているか、ある
いはこれからそういう仕事をしようと検討されている方々で
すが、いわゆる知的プロフェッショナルとしての仕事とはど
ういうものと考えられるでしょうか？

* 仕事に対する報酬という点で考えると、一番先に頭に
浮かぶのは給料であったり地位(昇進)であったりしますが、
果たしてそれだけでしょうか？ もちろんそれらは客観的指
標、目に見える指標として仕事のモチベーションを高めるも
のですが、研究開発という専門性の高い仕事の場合は、また
別の「報酬」があるのではないのでしょうか？

* 専門性の高い研究という仕事の特徴として一番典型的
なものは、仕事を時間の概念で計らない(計れない)とい
うところで、いわゆる時給的考え方はそぐわないことが挙げら
れます。よって成果を対象として評価されているわけですが、
これを狭い意味での「成果主義」ではなく、成果自体が報酬
としてみなされるのではないかと、という点で考えてみます。

* 別の意味では働き甲斐という考え方もあり、「仕事の
報酬は仕事」のような表現もいわれています。この意味す
るところは、仕事をする過程で地道に努力を続けていった結
果、能力向上や自己実現という形で個人個人に返ってくる目
に見えない報酬があり、それらを実感することで得られる満

足感、単に給料をもらうということよりも大きいと考えら
れる、という点です。

* また成功するために仕事をするという考え方もありま
すが、これも陥りやすい落とし穴であり、これから導かれる
誤った思考パターンは、「成功しなかったら(失敗したら)、
仕事としては無駄だった」ということになります。「成功」
を目指すのではなく「成長」を目指すことで得られるものは
多いのではないのでしょうか？ 失敗してもそれを生かして次
の機会の成功につなげることができれば、それは能力が向上
して成長したといえます。すなわち「成長」は、仕事をすれ
ば必ず得られる「約束された報酬」といえると思います。

* 働くとは「傍(はた)を「楽(らく)にするという
語源もあると聞いています。狭義の成果主義が陥りやすい、
個人/所属組織の成果のみを重視するセクショナリズムの考
え方ではなく、全体として助け合いながら得られた成果を共
有することにより、満足感という「報酬」を等価的に増やす
という考え方もあると思います。

* 更に広い意味でいえば、「世のため人のため」という
言い古された仕事観がありますが、これの本質は「情けは人
のためならず」ということわざにもあるように、巡り巡って
自分のために返ってくるという高いレベルの報酬の考え方
にあります。こうしたボランティア的仕事観は人の口によく上
りますが、それだけに改めて今、その価値を考える時期なの
かもしれません。

* こうして仕事、特に本会誌読者の多くの方々が携わっ
ている研究開発という観点から働くことの意味を考えてみる
と、時代に左右されない仕事の本質が見えてくるのではない
でしょうか？ 今は残念ながら厳しい環境に置かれている方
もいますが、上記の本質を心に留めて日々取り組むことで、
新しい視野が開かれるものと信じます。いろいろ僣越な意見
を述べさせて頂きましたが、自分のことを振り返る意味でも
引き続き考えてみたいと思います。

(編集特別幹事 笹山浩二)